

# 市民提案書

～ これからの行田市のまちづくり ～



平成 24 年 3 月

行田市都市計画マスタープラン

市民まちづくり会議

## はじめに

---

私たちは、新たな都市計画の基本的な方針となる都市計画マスタープランの策定にあたり、日々生活を営んでいる市民の意見・提案を取り入れた計画づくりを進めることを目的とした、行田市都市計画マスタープラン市民まちづくり会議に参加しました。

市民まちづくり会議は、一般公募により 32 名の市民が集まり、平成 23 年 11 月から平成 24 年 2 月にかけて全 4 回開催しました。それぞれの関心に従って、「住まいと暮らし」「暮らしを支える」「魅力を高める」「賑わいをつくる」の 4 つのグループに分かれ、まちづくりの現状と課題を整理し、課題解決に向けたまちづくりの方向性や実現に向けた取り組みアイデアについて意見交換を行い、この“市民提案書”をとりまとめました。

私たちは、これまで培った経験や視点から、行田市が進めるべきまちづくりについて、話し合いを重ねてきました。この“市民提案書”は、行田市に住んでいる私たちの「行田市をよくしたい」という思いが詰まった提案書であることを重く受け止めていただきたいと思います。

そして、都市計画マスタープランでは、行田市の将来の姿を明確に示した上で、これだけは譲れない、成し遂げるという決意をもって、全力を挙げて取り組んでいただきたいと思います。

ぜひ、私たちの思いをたくさん詰め込んだ“市民提案書”を、これからの行田市のまちづくりの指針となる都市計画マスタープランの策定プロセスの中で、反映していただくよう強く望みます。

おわりに、この“市民提案書”がこれからの行田市のまちづくりのヒントやアイデア集として活用されることを切に願い、ここに提案いたします。

これからも、元気で明るい行田を目指して、私たちと一緒に考え、語り合しましょう。

市民まちづくり会議参加市民一同

# 目 次

---

1. 市民まちづくり会議について	1
2. 行田市のまちづくりについての市民提案	3
1) 住まいと暮らし	3
① 防災について	3
② 生活環境・住環境について	5
③ 緑・公園について	6
④ 環境美化について	7
⑤ コミュニティ・防犯について	7
特に進めるべき「重点的な取り組み」	9
2) 暮らしを支える	10
① 道路について	10
② 公共交通について	13
③ インフラ整備について	14
特に進めるべき「重点的な取り組み」	15
3) 魅力を高める	16
① 地域資源について	16
② レクリエーションについて	19
特に進めるべき「重点的な取り組み」	21
4) 賑わいをつくる	22
① 秩父鉄道行田市駅周辺・中心部のまちづくりについて	22
② JR 行田駅周辺のまちづくりについて	24
③ 観光について	25
④ 教育について	28
特に進めるべき「重点的な取り組み」	29
5) まちづくりの推進	30
① 市民参加について	30
② 計画の推進について	31
市民まちづくり会議参加者からの意見	33
市民まちづくり会議参加者名簿	34
市民まちづくり会議の会議風景	35

# 1. 市民まちづくり会議について

---

市民まちづくり会議は、これからのまちづくりについて、以下の4つのテーマごとに7～9名でグループを構成し、ワークショップ方式で全4回（全体プログラムは次頁を参照）にわたり実施しました。

第1回会議では、行田市の現状や都市計画マスタープランの説明により理解を深め、参加者が日頃から感じている行田市の宝もの（良いところ、残したいもの）や問題もの（悪いところ、改善したいもの）について、意見を出し合いました。

第2回会議では、第1回の宝ものとは問題ものを踏まえ、まちづくりの現状と課題について確認し、課題解決に向けまちづくりの方向性について検討しました。

第3回会議では、第2回で検討したまちづくりの方向性の実現に向け、具体的な取り組みアイデアを出し、さらにその取り組みの役割分担（市民・行政・民間）や実施時期（短期・中期・長期）について検討しました。

第4回会議では、これまでに検討したまちづくりの方向性・取り組みアイデアを整理するとともに、これだけは実現したい重点的な取り組みについて検討を行い、「市民提案書」をとりまとめました。

## ■ 4つのテーマグループと参加人数

テーマ	分野	人数
住まいと暮らし	住環境、防災・防犯、コミュニティ	8名
暮らしを支える	道路、公共交通、下水道、情報インフラ	7名
魅力を高める	自然環境（水と緑）、景観、歴史・文化、レクリエーション	9名
賑わいをつくる	中心市街地と駅周辺のまちづくり、産業振興（農・工・商）、観光	8名

■全4回のプログラム

	開催日時・場所	内容
第1回	平成23年11月27日(日) 10:00~12:25 行田市役所3階305会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画マスタープラン及び市民アンケート調査結果について</li> <li>・グループワークの全体説明及びグループ分けについて</li> <li>・グループワーク「まちづくりの現状と課題の整理」</li> </ul>
第2回	平成23年12月18日(日) 9:00~12:00 行田市産業文化会館 2階2A会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回市民まちづくり会議の振り返りについて</li> <li>・グループワーク(その1)「まちづくりの課題を確認」</li> <li>・グループワーク(その2)「課題解決に向けたまちづくりの方向性を考える」</li> <li>・成果発表</li> </ul>
第3回	平成24年1月29日(日) 13:30~16:45 グリーンアリーナ2階研修室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回市民まちづくり会議の振り返りと第3回会議の内容について</li> <li>・グループワーク(その1)「まちづくりの方向性を確認しよう」</li> <li>・グループワーク(その2)「まちづくりを進めるための方向性を確認しよう」</li> <li>・成果発表</li> </ul>
第4回	平成24年2月26日(日) 13:30~16:50 行田市産業文化会館 2階2A会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回市民まちづくり会議の振り返りと第4回の会議内容について</li> <li>・グループワーク(その1)「これまでの成果を確認しよう」</li> <li>・グループワーク(その2)「重点的な取り組みについて考えよう」</li> <li>・成果発表</li> </ul>

■市民提案書の見方について

市民まちづくり会議では、様々な取り組みアイデアに対して「役割分担」と「実施時期」について、きめ細かな検討を行いました。記号の使い方については、下記のとおりです。

【役割分担】

- ・主に取り組むべき主体について「○」で示しています。
- ・市民の声を聞きながら取り組むものについては、市民の欄に○をつけていませんが、それぞれを進める際は、市民の声を聞くものとします。

【実施時期】

- ・短期は、すぐにでも取り掛かるべき、優先度の高い取り組みです。(概ね5年以内)
- ・中期は、特に優先度が低い取り組みのほか、短期だけでは出来ない取り組みです。(概ね5~10年)
- ・長期は、長い期間をかけて、実現していかなければならない取り組みです。(概ね10~20年)
- ・なお、継続的に取り組むものについては短期~長期にわたって「→」を入れています。

## 2. 行田市のまちづくりについての市民提案

### 1) 住まいと暮らし

「住まいと暮らし」グループは、住環境、防災・防犯、コミュニティなど、私たちの暮らしの基本となる安全・安心に関わる分野について、検討を重ねてきました。誰もが安心して住み続けられるまちをつくるために、以下の内容を提案します。

分野	まちづくりの方向性
防災	●災害に強いまちのあり方を検討する。 ●水害対策を充実させる。 ●市街地の延焼を防ぐための空間を確保する。 ●防災体制の見直しや災害時の体制を強化する。
生活環境・ 住環境	●良好な住環境を保全・維持するためのルールをつくる。 ●住宅地の安全性を確保するための道路整備を進める。 ●防災性を考慮した安全な住宅地をつくる。
緑・公園	●屋敷林などのまとまった緑を保全・活用する。 ●公園や街路樹の維持管理のあり方を見直す。
環境美化	●地域が主体となったクリーン活動を継続する。
コミュニティ・ 防犯	●地域で気軽に集まれる場所の整備・充実を図る。 ●市民活動を活性化する。 ●防犯灯の整備・充実を図る。

#### ① 防災について

##### 【現状と課題】

- ・平坦な地形のため、自然災害が比較的少ない地理的条件である。
- ・一方で、河川や用水が多く、集中豪雨などにより水害の危険性がある。
- ・大地震に備えた防災体制の構築が必要である。

**【まちづくりの方向性】**

- 災害に強いまちのあり方を検討する。
- 水害対策を充実させる。

- 市街地の延焼を防ぐための空間を確保する。

- 防災体制の見直しや災害時の体制を強化する。

**【取り組みアイデア】**

- ・ 水害に備えるための河川改修
- ・ 水害時に活用できる水路の整備
- ・ 治水を伴った公園の整備

- ・ 市街地におけるオープンスペースの確保

- ・ 避難所の安全対策（施設の耐震化等）の強化
- ・ 防災体制（コミュニティ・インフラ整備）の見直し
- ・ 水害ハザードマップの定期的な見直し
- ・ 地震・水害・火災別の防災訓練の実施
- ・ 老朽建築物の耐震化

**【役割分担と実施時期】**

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
水害に備えるための河川改修		○				→
水害時に活用できる水路の整備	○	○	○		→	
治水を伴った公園の整備	○	○			→	
市街地におけるオープンスペースの確保		○	○		→	
避難所の安全対策（施設の耐震化等）の強化		○		→		
防災体制（コミュニティ・インフラ整備）の見直し	○	○	○	→		
水害ハザードマップの見直し		○		→	→	→
地震・水害・火災別の防災訓練の実施	○	○	○	→		
老朽建築物の耐震化	○	○	○	→		

**市民まちづくり会議で出された意見**

- ・ 行政が取り組む内容が多い分野ですが、防災体制や防災訓練などについては、市民が主体的に取り組むべき課題です。
- ・ また、これらのソフト面の取り組みは、出来るだけ早くスタートし、市民と行政の協働により、安全で安心できるまちづくりを進めていく必要があります。

## ② 生活環境・住環境について

### 【現状と課題】

- ・地域によっては交通機関や道路網が十分ではなく、利便性が低いところがある。
- ・生活道路内への通過交通により、交通事故の危険性や振動・騒音などの問題を抱えている地域がある。
- ・宅地開発に伴い、宅地の細分化が進んでいる。

### 【まちづくりの方向性】

●良好な住環境を保全・維持するためのルールをつくる。

●住宅地の安全性を確保するための道路整備を進める。

●防災性を考慮した安全な住宅地をつくる。

### 【取り組みアイデア】

・建築協定や地区計画の整備推進  
・行田市にふさわしい敷地面積の設定  
・宅地開発における公園整備のあり方の検討

・良好な住宅地を活かす生活道路の整備

・ブロック塀を生け垣にするなどのルールづくり  
・生け垣化に対する補助制度の整備

### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
建築協定や地区計画の整備推進	○	○	○	→	→	→
行田市にふさわしい敷地面積の設定	○	○	○	→	→	
宅地開発における公園整備のあり方の検討	○	○	○	→	→	
良好な住宅地を活かす生活道路の整備	○	○	○	→	→	
ブロック塀を生け垣にするなどのルールづくり	○	○	○	→	→	
生け垣化に対する補助制度の整備		○		→	→	

### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・良好な住環境を形成するためには、それぞれの地域にあったルールづくりなど、長期的な取り組みが必要です。
- ・行田市の環境にふさわしい住宅地のあり方を検討していく必要があります。

### ③ 緑・公園について

#### 【現状と課題】

- ・地域によっては、子どもが少なく、公園があまり使われていないところがある。
- ・緑道や地域の公園の中には管理上の問題があるところがある。

#### 【まちづくりの方向性】

●屋敷林などのまとまった緑を保全・活用する。

●公園や街路樹の維持管理のあり方を見直す。

#### 【取り組みアイデア】

・屋敷林の公園化（オープンガーデンなど）

・公園や街路樹のオーナー制の導入（公園の里親制度、公園施設（ベンチ・樹木等）や街路樹のオーナー制度など）  
・農協などの空き地の活用

#### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
屋敷林の公園化(オープンガーデンなど)	○	○	○		→	
公園や街路樹のオーナー制の導入	○	○	○	→	→	
農協などの空き地の活用			○		→	

#### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・公園の整備については、市民が広く利用できるオープンスペースの整備が望まれます。
- ・屋敷林の公園化については、管理が行き届いていない空き家の問題と一体的に取り組んでいく必要があります。

## ④ 環境美化について

### 【現状と課題】

- ・ 除草作業などがきちんと行われている公園もあるが、中には手入れがされていない公園がある。
- ・ 市内を流れる河川や水路があまりきれいとは言えない。また、生活排水の流入や濁水期の水流減のために、臭うことがある。
- ・ 空地の管理が十分でない。

### 【まちづくりの方向性】

- 地域が主体となったクリーン活動を継続する。

### 【取り組みアイデア】

- ・ 自治会や小・中学校におけるクリーン活動の継続
- ・ 河川や水路の清掃、年間通水

### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
自治会や小・中学校におけるクリーン活動の継続	○	○		→	→	→
河川や水路の清掃、年間通水	○	○	○	→	→	→

### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・ 地域のクリーン活動は、今後も積極的に続けていく必要があります。
- ・ 市街地の空地の中には、適切な管理が必要な場所もあります。

## ⑤ コミュニティ・防犯について

### 【現状と課題】

- ・ 過疎化・高齢化が進んでいる地域がある。
- ・ 市民による防犯パトロールが行われている。
- ・ 防犯灯が明るすぎて、星空が見えにくくなっている場所がある。

**【まちづくりの方向性】**

**【取り組みアイデア】**

●地域で気軽に集まれる場所の整備・充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ施設の整備（自治会館の機能充実）</li> <li>・小・中学校の有効活用</li> <li>・既存施設の再編成（公民館、地域文化センター、自治会館）</li> </ul>
●市民活動を活性化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・NPO 団体の連携と窓口の一本化</li> <li>・まちづくりに関する相談窓口の充実</li> </ul>
●防犯灯の整備・充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全地域での防犯灯の整備</li> <li>・足元を照らすタイプの防犯灯の導入の検討</li> </ul>

**【役割分担と実施時期】**

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
コミュニティ施設の整備（自治会館の機能充実）	○	○	○		→	
小・中学校の有効活用	○	○			→	
既存施設の再編成（公民館、地域文化センター、自治会館）	○	○	○		→	
ボランティア・NPO団体の連携と窓口の一本化		○	○	→	→	
まちづくりに関する相談窓口の充実	○	○	○	→		
全地域での防犯灯の整備	○	○			→	
足元を照らすタイプの防犯灯の導入の検討		○			→	

**市民まちづくり会議で出された意見**

- ・高齢社会に向けた、地域で支え合うコミュニティの維持に向けた取り組みが必要です。
- ・地域の拠点となる施設は、日常は住民の交流の場であり、非常時にも活用ができるような機能が望まれます。
- ・市民活動については、元気な高齢者に積極的に呼びかけ、まちづくりを盛り上げていく必要があります。
- ・防犯灯の整備にあたっては、環境に配慮し、自然エネルギーを活用するタイプの整備が望ましいと考えます。

## 特に進めるべき「重点的な取り組み」

### ● 元気な高齢者の活用と市民活動の活性化

#### 【取り組みの必要性】

- ・ 今後、団塊世代の定年退職により地域で過ごす人が増加する。
- ・ スキルや経験を活かしたいと思っている人も多い。
- ・ 活動を行いたくても、情報が整理されておらず、窓口が分からない。



#### 【具体的な取り組みについて】

- ・ 高齢者の活動の場の創出
- ・ 参加募集方法の検討
- ・ ボランティア・NPO 団体の連携と窓口の一本化(ボランティア・NPO 団体の連絡会の開催など)

### ● 環境に配慮した、災害時にも機能する防犯灯の整備

#### 【取り組みの必要性】

- ・ 現在、防犯灯などの LED 化が進められている。
- ・ まちの安全性を高める一方で、環境に配慮するとともに災害時にも使用可能な“発電型”の電源を確保することも必要。



#### 【具体的な取り組みについて】

- ・ 環境に配慮した、自然エネルギーにより発電する防犯灯の整備（ソーラー発電、水力発電など）

### ● “水と緑のまち” にふさわしいクリーン活動

#### 【取り組みの必要性】

- ・ 市内を流れる河川や水路があまりきれいとは言えない。
- ・ 市民によるクリーン活動は、今後も積極的に継続していきたい。



#### 【具体的な取り組みについて】

- ・ これまでのクリーン活動に加え、“水と緑のまち” にふさわしい、きれいな河川や水路を目指し、美化を進めていく。

### ● 公園・街路樹へのオーナー制の導入

#### 【取り組みの必要性】

- ・ 地域の公園があまり使われていない。
- ・ 落ち葉や鳥を理由に大きな木が敬遠されることがある。



#### 【具体的な取り組みについて】

- ・ 公園や街路樹のオーナー制を導入し、市民に親しまれる公園や街路樹を目指す。
- ・ オーナー制は、市民活動の活性化の取り組みと関連させる。

## 2) 暮らしを支える

「暮らしを支える」グループは、道路、公共交通、下水道、情報インフラなど、私たちの暮らしに欠かせない都市基盤に関する分野について、検討を重ねてきました。誰もが快適に便利に暮らせるまちをつくるために、以下の内容を提案します。

分野	まちづくりの方向性
道路	<ul style="list-style-type: none"><li>●歩いて暮らせるみちづくりを推進する。</li><li>●歩きたくなる、人に優しいみちづくりを推進する。</li><li>●道路拡幅・新設による住環境への影響を考慮しながら計画を推進する。</li><li>●魅力的な幹線沿道の整備を行う。</li><li>●南北方向道路を充実させる。</li><li>●案内板等の整備により利用者の利便性を向上させる。</li><li>●市民と一体となった「みちをまもる」ための仕組みをつくる。</li></ul>
公共交通	<ul style="list-style-type: none"><li>●バス路線の利便性を高める。</li><li>●高齢者や観光客に配慮した市内循環バスのルート設定を検討する。</li><li>●市内公共交通事業者と市・市民との協力体制を築く。</li></ul>
インフラ整備	<ul style="list-style-type: none"><li>●河川環境を保全する。</li><li>●上下水道施設の耐震化を推進する。</li><li>●下水道普及率を向上させる。</li><li>●都市ガス網の充実を図る。</li></ul>

### ① 道路について

#### 【現状と課題】

- ・主要道路において歩道の整備が進められているが、依然として未整備の箇所がある。
- ・歩道に段差やスロープ（傾斜）が多い、また、歩道の幅員が狭い。
- ・歩行者と自転車が安心して利用できない。
- ・道路整備に伴い、歩行者が行き来にしにくい箇所が生じ、地域が分断された。
- ・高速道路へのアクセス利便性が十分でない。
- ・道路や街路樹の整備・維持管理が十分にされていない箇所がある。

## 【まちづくりの方向性】

●歩いて暮らせるまちづくりを推進する。

## 【取り組みアイデア】

- ・歩行者空間の確保
  - みなし歩道化（狭あい路線におけるグリーン舗装等）の推進
  - 主要道路の街路樹の一部伐採による歩行者スペースの確保
  - 通行規制（一方通行等）による歩行者空間の充実
  - 国道 125 号バイパスの側道の歩行者専用化
- ・目的地を意識した、つながりのある歩道の整備
- ・自転車専用道路（レーン）の整備
- ・生活専用道路（車両通行規制）の区域指定

●歩きたくなる、人に優しいまちづくりを推進する。

- ・ユニバーサルデザインによる歩道の整備（歩道のバリアフリー化など）
- ・歩道幅員の拡幅
- ・国道 125 号など市内中心部を走る大型車両の抑制
- ・国道 125 号の管理の市への移管
- ・信号点滅時間の見直し

●道路拡幅・新設による住環境への影響を考慮しながら計画を推進する。

- ・既存道路と新設道路の整備のあり方の検討

●魅力的な幹線沿道の整備を行う。

- ・国道 125 号バイパス沿道への道の駅設置の検討

●南北方向道路を充実させる。

- ・南北方向道路（都市計画道路常盤通佐間線、行田市停車場酒巻線バイパス）の整備

●案内板等の整備により利用者の利便性を向上させる。

- ・利用者に伝わる道路案内板の工夫・見直し

●市民と一体となった「みちをまもる」ための仕組みをつくる。

- ・道路照明灯の整備充実
- ・街路樹や歩道の維持管理の仕組みづくり

※ユニバーサルデザインとは、年齢、身体的状況、言語、知識、経験などの違いに関係なく、すべての人が使いこなすことのできる製品や環境などのデザインを旨とする概念です。一方、バリアフリーとは、障段差などの物理的な障壁（バリア）のほか、社会的、制度的、心理的な障壁を取り除かれた状態を差します。

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア		役割分担			実施時期		
		市民	行政	民間	短期	中期	長期
歩行者空間の確保	みなし歩道化(狭あい路線におけるグリーン舗装等)の推進		○		→		
	主要道路の街路樹の一部伐採による歩行者スペースの確保		○	○		→	
	通行規制(一方通行等)による歩行者空間の充実		○		→	→	
	国道125号バイパスの側道の歩行者専用化		○			→	→
目的地を意識した、つながりのある歩道の整備			○		→	→	→
自転車専用道路(レーン)の整備			○		→	→	→
生活専用道路(車両通行規制)の区域指定		○	○			→	→
ユニバーサルデザインによる歩道の整備(歩道のバリアフリー化など)			○		→	→	→
歩道幅員の拡幅			○		→	→	→
国道125号など市内中心部を走る大型車両の抑制			○			→	→
国道125号の管理の市への移管			○			→	→
信号点減時間の見直し		○	○		→		
既存道路と新設道路の整備のあり方の検討		○	○			→	
国道125号バイパス沿道の道の駅設置の検討			○	○			→
南北方向道路(都市計画道路常盤通佐間線、行田市停車場酒巻線バイパス)の整備			○			→	→
利用者に伝わる道路案内板の工夫・見直し			○	○		→	→
道路照明灯の整備充実			○		→	→	→
街路樹や歩道の維持管理の仕組みづくり		○	○	○	→		

市民まちづくり会議で出された意見

- ・道路の整備については、行政が取り組むべき分野が多くなっていますが、利用する市民の声を十分に取り入れながら計画に反映させていく必要があります。
- ・歩道の拡幅やバリアフリー化については、全ての人に優しいみちづくりを実現する上で、優先的に行う必要があります。
- ・南北方向道路の充実の他は、市内の住環境保全のためにも、新たな幹線道路の整備は抑え、歩行者空間の充実や魅力的な沿道整備を行う等の質的向上を図っていくことが必要です。

## ② 公共交通について

### 【現状と課題】

- ・市内循環バスの利用率が低い。
- ・JR 行田駅からの路線バスがない。
- ・市内循環バスは観光利用しやすい設定がされている。
- ・JR 行田駅よりも吹上駅の方が、市民に多く利用されている。
- ・秩父鉄道の運行本数が少ない。

### 【まちづくりの方向性】

●バス路線の利便性を高める。

●高齢者や観光客に配慮した市内循環バスのルート設定を検討する。

●市内公共交通事業者と市・市民との協力体制を築く。

### 【取り組みアイデア】

・JR 行田駅への路線バスの新設・運行

・市民のニーズに沿ったデマンド交通の検討  
・観光客向けルートの充実

・市内公共交通事業者と市および市民との意見交換機会の創出（行政・事業者・市民を交えた意見交換機会の設置）

※デマンド交通とは、デマンド対応型交通（Demand Responsive Transport: DRT）方式のことであり、利用者の要求に対応して運行する形態の公共交通です。日本では、主にバスやワゴンタクシーの形で導入されています。

### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
JR行田駅への路線バスの新設・運行	○	○	○	→	→	
市民のニーズに沿ったデマンド交通の検討	○	○		→	→	
観光客向けルートの充実	○	○		→	→	
市内公共交通事業者と市および市民との意見交換機会の創出	○	○	○		→	→

#### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・鉄道、バスを含めた市内の総合交通体系のあり方について、行政・民間事業者・市民が協働して取り組んでいく必要があります。
- ・市内循環バスについては、高齢者・観光客それぞれのニーズを把握し、利用率向上につながるルートの設定、運行本数について検討することが必要です。

### ③ インフラ整備について

#### 【現状と課題】

- ・ 公営水道の水圧が高く、使いやすい。
- ・ 忍川や酒巻導水路等では、生活排水の流入や渇水期の水流減のために、臭うことがある。
- ・ 都市ガスが利用できない地域がある。

#### 【まちづくりの方向性】

- 河川環境を保全する。
- 上下水道施設の耐震化を推進する。
- 下水道普及率を向上させる。
- 都市ガス網の充実を図る。

#### 【取り組みアイデア】

- ・ 河川改修、整備の推進
- ・ 渇水期通水による河川の浄化
- ・ 上下水道施設の耐震化
- ・ 下水道整備の推進
- ・ 水洗化率向上のための普及啓発
- ・ 都市ガス網充実に向けた事業者への働きかけ

#### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
河川改修、整備の推進		○			→	→
渇水期通水による河川の浄化		○			→	→
上下水道施設の耐震化		○			→	→
下水道整備の推進		○		→	→	→
水洗化率向上のための普及啓発	○	○		→	→	
都市ガス網充実に向けた事業者への働きかけ	○	○	○		→	→

#### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・ 河川環境の整備や上下水道施設整備については、主に行政が取り組むべき分野となっています。住環境の向上のために中長期的な計画で着実に整備を進めていく必要があります。
- ・ 都市ガス網の充実については、行政や市民から事業者への働きかけが必要です。

## 特に進めるべき「重点的な取り組み」

### ●ユニバーサルデザインによる歩道の整備（歩道のバリアフリー化など）

#### 【取り組みの必要性】

- ・歩道が狭く、整備された箇所以外は歩きづらい。（市役所周辺、主要道路など）
- ・舗装が波打っている歩道がある。



- ・歩いて暮らせるみちづくりの実現のために必要不可欠である。
- ・今後、市民の高齢化が進むことが予測され、お年寄りが安心して出歩けるまちにしたい。
- ・みんなが安心して出歩けることでまちの活性化に繋がり、健康維持のためにもよい。
- ・自転車の走行も考慮した計画づくりも必要である。

#### 【具体的な取り組みについて】

- ・道路整備の視点を「車中心」から「歩行者・自転車」へ転換する。
- ・市民との合意形成を図りながら、行政が中心となって路線を順位付け、優先的に整備する路線を選定する。
- ・上記を踏まえ、優先的整備路線を計画的に整備する。
- ・一方通行化や歩行者天国の設定も検討する。

#### 【優先的整備路線（案）】

国道125号、市役所周辺、行田市駅～産業道路、小中学校周辺、観光ルート（足袋蔵、中心市街地周辺）

### ●市民のニーズに沿ったデマンド交通の検討

#### 【取り組みの必要性】

- ・市内循環バスのルートや本数、運行時間帯が不便である。
- ・現状のルートでは、市役所や病院に行きにくい。



- ・市民利用の利便性の向上を図り、乗車人数を増やす取り組みが必要である。
- ・デマンド交通の導入により、市民が気軽に目的地に行けるような交通手段を確保する必要がある。
- ・近隣では北本市で実施している。

#### 【具体的な取り組みについて】

- ・デマンド交通実施のための、ランニングコスト・費用対効果の検討を行う。
- ・市民利用に限らず、観光客向けの総合的なデマンド交通を検討し、行田市オリジナルの交通手段として幅広い利用を促進する。



### 3) 魅力を高める

「魅力を高める」グループは、自然環境（水と緑）、景観、歴史・文化、レクリエーションなど、私たちの暮らしを豊かにする地域資源に関する分野について、検討を重ねてきました。本市の強みである地域資源の魅力をさらに高め、全国に発信していくために、以下の内容を提案します。

分野	まちづくりの方向性
地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然環境を保全・活用する。</li> <li>●歴史資源を掘り起こし、保全する。</li> <li>●地域資源の保全手法を検討する。</li> <li>●地域資源の維持管理に、ボランティアを活用する。</li> <li>●地域資源をつなぐルートを設定する。</li> <li>●地域資源の案内板を充実させる。</li> <li>●自転車で回れるまちづくりに向けた環境整備を進める。</li> <li>●観光客にとって利用しやすい交通手段を整備する。</li> <li>●情報発信の体制づくりや既存の発信手法を見直し、改善する。</li> <li>●市民一人ひとりが、行田市の宣伝ができるようにする。</li> </ul>
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公園・緑道等を気持ちよく安全に利用出来るように維持管理する。</li> <li>●資源（拠点）を結び、アクセスをわかりやすくする。</li> <li>●市民が身近でスポーツに親しめる環境を整える。</li> <li>●市民や観光客がホッとできる場を整備する。</li> <li>●行田らしさを生かしたおもてなしをできる環境を整える。</li> </ul>

#### ① 地域資源について

##### 【現状と課題】

- ・市内には、自然の風景から歴史的な資源まで、様々な地域資源が点在している。
- ・歴史を感じる街並み（足袋蔵、裏道）や古民家、忍城址周辺の原風景でもある諏訪曲輪周辺など、十分に活用されていない地域資源がある。
- ・これらの地域資源を活かすためにも、まず、河川や水路などの「水」をきれいにする必要がある。
- ・点在する地域資源を歩いて楽しめる散策道がない。
- ・平坦な地形や緑と水を活かしたレンタサイクルやサイクリングロードの整備が進んでいるが、一部、自転車道が繋がっていない。
- ・地域資源の位置や、地域資源に関する情報を伝える手段が充実していない。

### 【まちづくりの方向性】

●自然環境を保全・活用する。

●歴史資源を掘り起こし、保全する。

●地域資源の保全手法を検討する。

●地域資源の維持管理に、ボランティアを活用する。

●地域資源をつなぐルートを設定する。

●地域資源の案内板を充実させる。

●自転車で回れるまちづくりに向けた環境整備を進める。

●観光客にとって利用しやすい交通手段を整備する。

●情報発信の体制づくりや既存の発信手法を見直し、改善する。

●市民一人ひとりが、行田市の宣伝ができるようにする。

### 【取り組みアイデア】

・ビオトープの整備  
・公園等に苗木を植えることによる、森づくりの推進

・歴史資源の掘り起こし

・買い上げを含めた保全・活用方法の検討

・ボランティアによる、地域資源の維持管理の仕組みづくり

・地域資源をつなぐルートの設定（市民と行政による検討委員会による検討）

・地域資源をつなぐルートへの案内板の設置（案内板への企業広告、企業からの出資を募る）

・自転車道の整備（マナー教育も必要）  
・利用しやすいレンタサイクルの充実（有料化）

・地域資源（観光拠点）をまわる市内循環バスの充実（シーズンごとのルートのあり方検討）  
・利用状況に応じた市内循環バスの運行

・観光情報の一元化  
・ホームページのわかりやすさと利便性の向上（市HPから他団体へのリンクの充実）

・市民がまちについて学ぶ機会の充実

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
ビオトープの整備	○	○		→		
公園等に苗木を植えることによる森づくりの推進	○	○		→	→	→
歴史資源の掘り起こし	○			→	→	→
買い上げを含めた保全・活用方法の検討	○	○			→	
ボランティアによる地域資源の維持管理の仕組みづくり	○				→	
地域資源をつなぐルートの設定(市民と行政による検討委員会による検討)	○	○		→		
地域資源をつなぐルートへの案内板の設置(案内板への企業広告、企業からの出資を募る)	○	○	○		→	→
自転車道の整備(マナー教育も必要)	○	○		→	→	
利用しやすいレンタサイクルの充実(有料化)		○	○	→		
地域資源(観光拠点)をまわる循環バスの充実(シーズンごとのルートのあり方検討)		○			→	→
利用状況に応じた市内循環バスの運行		○	○	→		
観光情報の一元化		○	○	→		
ホームページのわかりやすさと利便性の向上(市HPから他団体へのリンクの充実)		○		→		
市民がまちについて学ぶ機会の充実	○	○	○	→	→	→

市民まちづくり会議で出された意見

- ・ 行田市には、忍城址、水城公園、さきたま古墳公園、古代蓮の里、小崎沼など、他市に誇れる数多くの地域資源が点在していますが、それらをつなぐルートや案内が十分に整備されていないことが大きな課題になっています。
- ・ 市民も市外から訪れる人も、これらを楽しめるように、地域資源を取り巻く環境整備を進めていくことが必要です。
- ・ 特に、地域資源の保全・活用や維持管理については、市民が関われることも多いため、市民と行政が協力・連携して取り組む必要があります。
- ・ 情報発信については、ホームページの分かりやすさの工夫など、利用者の目線から、早急に改善することが必要です。

## ② レクリエーションについて

### 【現状と課題】

- ・人が集まり楽しめる魅力的な公園、広場、緑道等が少ない。
- ・河川や水路などの水辺を、気持ちよく利用できない。
- ・周辺にサイクリングロードが多数ある。(平地や水と緑が活かされている。)
- ・街中にベンチやトイレなどが少なく、ゆっくりと過ごすことが出来ない。

### 【まちづくりの方向性】

●公園・緑道等を気持ちよく安全に利用出来るように維持管理する。

●資源（拠点）を結び、アクセスをわかりやすくする。

●市民が身近でスポーツに親しめる環境を整える。

●市民や観光客がホッとできる場を整備する。

●行田らしさを生かしたおもてなしをできる環境を整える。

### 【取り組みアイデア】

・水城公園や忍川等の河川の水質の浄化

・主要な拠点を結ぶ緑道の整備  
・地域資源を結ぶサイクリングコースの整備

・身近なスポーツ施設の充実

・休憩スペースの確保（市民や事業者によるトイレ・休憩場所の提供）

・郷土料理を提供する場の整備  
・風車エネルギーを活かした喫茶スペース等の創出の検討

### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
水城公園や忍川等の河川の水質の浄化		○		→	→	→
主要な拠点を結ぶ緑道の整備		○			→	→
地域資源を結ぶサイクリングコースの整備		○			→	→
身近なスポーツ施設の充実		○			→	
休憩スペースの確保(市民や事業者によるトイレ・休憩場所の提供)	○		○	→		
郷土料理を提供する場の整備	○	○	○	→		
風車エネルギーを活かした喫茶スペース等の創出の検討		○		→	→	→

#### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・多様な地域資源を活かすためには、まず、「きれいな水がある行田」を実現することが必要です。そのためにも、水城公園や忍川の水質浄化は、早期に取り組む必要があります。
- ・また、水と緑を感じられる地域資源を、市民が安全に気持ちよく楽しむことが出来るような環境づくりが必要です。
- ・市内には、休憩できるちょっとしたスペースやトイレ、ベンチがあまりありません。市民が散策する時だけでなく、観光客にとっても必要な施設であり、整備・充実が求められています。
- ・こうした休憩スペースの確保に向けては、市による公共施設整備だけでなく、一般市民や事業者のおもてなしの気持ちから提供が行われている事例もあります。行田市でもそうした取り組みが行われるような意識の醸成も必要です。

## 特に進めるべき「重点的な取り組み」

### ● 「水がきれいなまち 行田」の実現

#### 【取り組みの必要性】

##### ●行田市は「水」がキーワード

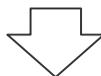
- ・総合振興計画において「豊かな水辺環境」がうたわれている。
- ・「豊富な水」というキャッチフレーズがよく使われているが現状とあっていない。
- ・県下の水のスタート地点である。(武蔵水路の水は通過するだけになっている。)
- ・水が豊かだったおかげで、古代からの歴史がある。

##### ●潤いと癒しをもたらす「水」

- ・これからのまちづくりには、環境と癒しの視点が求められる。
- ・水がきれいになると、気持ちがいい。人の心もきれいになる。

##### ●「水」がきれいになることは、市民の永年の夢

- ・水がきれいになると、水辺が楽しくなり、人が集まる。
- ・一人ひとりが「きれいにしよう」という気持ちを持つようになる。
- ・動植物の生態系が豊かになり、子どもたちが自然に親しみ、笑顔があふれるまちになる。



#### 【具体的な取り組みについて】

##### 濁水期通水による水質浄化

##### ■手段①：武蔵水路や酒巻導水路の水を流してもらう

- ・武蔵水路や酒巻導水路の水利用について、関係機関と交渉し、実現させる。
- ・行政には、出来ないことを可能にして欲しい。(市民は期待している)
- ・市民は、市民運動などで流れをつくり、行政を後押しする。

##### ■手段②：井戸を掘り、湧水を活用する

- ・熊谷市に近いエリアに豊富にある地下水を、濁水期の通水に活用する。

##### ■手段③：雨水を活用する

- ・行政や市民による雨水タンクを設置し、そこに貯留した雨水を非常時等に活用する。

## 4) 賑わいをつくる

「賑わいをつくる」グループでは、中心市街地と駅周辺のまちづくり、産業振興（農業・商業・工業）など、市の発展に関わる分野について、検討を重ねてきました。本市の拠点の再生・活性化を図りつつ、訪れてみたいまち、楽しめるまちをつくるために、以下の内容を提案します。

分野	まちづくりの方向性
秩父鉄道行田市駅周辺・中心部のまちづくり	●高齢者にやさしい商店街など、商店街の差別化による活性化を図る。 ●商店街の再編・集約を図る。 ●人が集まる場所を創出する。 ●商店街のPRを推進する。
JR 行田駅周辺のまちづくり	●個別計画に基づき、戦略的に開発を推進する。 ●人口流出に歯止めをかけるための施策を充実する。
観光	●観光客の目線から、観光施策を見直し、必要な取組みを講じる。 ●観光客が訪れたい施設・環境を整備する。 ●行田ブランドを創出する。 ●自転車で回れるまちづくりを進める。 ●観光客に分かりやすい案内やガイドを充実させる。 ●観光に関するPRを強化する。 ●小中学生に行田の魅力を伝え、愛着を育てていく。
教育	●人を呼び込むために、教育に関して県下のまちを目指す。

### ① 秩父鉄道行田市駅周辺・中心部のまちづくりについて

#### 【現状と課題】

- ・市街地の商店街は活気がなくなっている。（シャッター通りになっている。）
- ・一方で、商店街の個人商店にはすばらしいヒト・モノやこだわりがあり、生き残っている「商店」には元気がある。（商店街ではない。）
- ・そういった商店では、PRする場や機会がないといった悩みを抱えている。

### 【まちづくりの方向性】

●高齢者にやさしい商店街など、商店街の差別化による活性化を図る。

### 【取り組みアイデア】

・商店街の個性化、差別化の推進  
 ・高齢者向けサービスの充実（例えば高齢者の荷物を運ぶ「御用聞き」スタイルのサービス）  
 ・市内ウォーキング企画による商店街の活性化

●商店街の再編・集約を図る。

・空き店舗の再編による専門店ゾーンの形成  
 ・経営意欲のある店舗の集約化・テナント誘致  
 ・商店街「特区」をつくる（税の減免措置等）

●人が集まる場所を創出する。

・繁華街の整備、空き店舗を活用した休憩所  
 ・観光物産店の整備  
 ・タイアップ（着物・煎餅・のぼうの城・蔵）

●商店街のPRを推進する。

・体験できる施設（藍染・勾玉）のPR強化  
 ・魅力ある参加型イベントの実施  
 ・JRや秩父鉄道・関係機関との連携によるPR

### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
商店街の個性化、差別化の推進			○		→	
高齢者向けサービスの充実（例えば高齢者の荷物を運ぶ「御用聞き」スタイルのサービス）	○			→		
市内ウォーキング企画による商店街の活性化	○		○		→	
空き店舗の再編による専門店ゾーンの形成			○		→	→
経営意欲のある店舗の集約化・テナント誘致			○		→	→
商店街「特区」をつくる（税の減免措置等）		○			→	→
繁華街の整備、空き店舗を活用した休憩所			○		→	→
観光物産店の整備			○		→	
タイアップ（着物・煎餅・のぼうの城・蔵）			○		→	
体験できる施設（藍染・勾玉）のPR強化	○	○	○		→	
魅力ある参加型イベントの実施		○	○	→		
JRや秩父鉄道・関係機関との連携によるPR強化			○		→	

### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・高齢者向けサービスの充実や祭り・イベントとのタイアップなど、商店や民間業者でできるソフト面の取り組みはすぐにでも始められます。
- ・商店街の再編や商店街特区の構想などは、早い段階に長期計画を定め、民間事業者等と連携を図りながら実現していく必要があります。

## ② JR 行田駅周辺のまちづくりについて

### 【現状と課題】

- ・JR 行田駅周辺の開発が遅れているため、商業施設などの集積が見られない。
- ・JR 行田駅周辺のまちづくりの計画が見えてこない。
- ・JR 行田駅へのアクセスが悪く、利用しにくい。

### 【まちづくりの方向性】

●個別計画に基づき、戦略的に開発を推進する。

●人口流出に歯止めをかけるための施策を充実する。

### 【取り組みアイデア】

・計画的・戦略的・具体的な開発推進  
 ・様々な機能（店舗・子育て支援・会議・宿泊・広域防災）を集約した高層ビルの開発

・バス路線や鉄道ダイヤの見直し  
 ・子育て施設・保育園の整備  
 ・規制緩和によるマンション開発の誘導など、人を住まわせる施策の充実

### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
計画的・戦略的・具体的な開発推進		○		→	→	→
様々な機能（店舗・子育て支援・会議・宿泊・広域防災）を集約した高層ビルの開発		○	○		→	
バス路線や鉄道ダイヤの見直し		○	○		→	
子育て施設・保育園の整備		○	○		→	
規制緩和によるマンション開発の誘導など、人を住まわせる施策の充実		○	○			→

#### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・ JR 行田駅周辺の今後のあり方が見えてこないのが問題です。また、そこに住むメリットがない限り駅周辺には人は集まらないため、住みたいと思えるようなまちづくりが必要です。
- ・ 行政で JR 行田駅周辺の将来像を見定め、中長期計画に基づいて、戦略的に住宅開発や土地の高度利用等が可能な環境を整えたうえで、民間事業者による開発等を誘導していく必要があります。

### ③ 観光について

#### 【現状と課題】

- ・ 市内には、たくさんの観光資源があるが、十分に活用されているとはいえない。
- ・ 観光客にとっての魅力となる、行田ならではの食べ物や特産物がない。
- ・ 観光客が訪れたときに利用できる飲食店や駐車場、宿泊施設等が少ない。
- ・ 貴重な産業の一つである農業について、農業や農産物を観光資源として活用していくことが必要。
- ・ 道路標識が少ない、案内看板（地図）が分かりづらい、観光マップが統一されていないなど、観光客に対して観光に関する情報が伝わりにくい。
- ・ 行政や関係組織が情報を共有していないため、連携して、活気あるまちづくりへの取り組みを進めることが必要。
- ・ 市民一人ひとりが、観光客を迎えるおもてなし意識を持ち、市全体で観光まちづくりに取り組むことが必要。

## 【まちづくりの方向性】

●観光客の目線から、観光施策を見直し、必要な取組みを講じる。

●観光客が訪れたくなる施設・環境を整備する。

●行田ブランドを創出する。

●自転車で回れるまちづくりを進める。

●観光客に分かりやすい案内やガイドを充実させる。

●観光に関するPRを強化する。

●小中学生に行田の魅力を伝え、愛着を育てていく。

## 【取り組みアイデア】

- ・観光サインやマップの統一、見やすい観光案内標識づくり
- ・各信号や駐車場に名称をつける
- ・132ヶ所の神社仏閣の説明板の充実
- ・格安観光、タクシー代行車の活用

- ・行田ブランドが全て揃っている物産館の整備
- ・飲食店等の前の休憩所やベンチ等の充実
- ・観光（おもてなし）に対する行田市民の意識改革

- ・新たな行田ブランド（食べ物）のアイデア募集
- ・地産地消による飲食店の展開
- ・貸し農園、家庭農園の充実

- ・サイクリングロードの整備・観光ルートのカラペイント

- ・ガイドボランティア（説明ボランティア）の結成
- ・観光資源を活用した定期的なイベント（桜めぐり、古墳や足袋蔵等の日本史めぐり）

- ・行田市の「忍城市」への改名
- ・駅名の「JR 忍城駅」「秩父鉄道 忍城市駅」への改名
- ・観光協会をトップとした体制の見直し・一元化
- ・民間主体のシンクタンクの結成
- ・ホームページやパンフレットの見直しと充実
- ・様々な媒体を活用した情報発信の強化（行田の祭りを全国にPR。例えば「手帳」に行田のお祭りを掲載してもらう）
- ・テレビ番組（まちの紹介）の放映権の買取り

- ・小中学生を対象とした「行田の魅力」を伝える講習の実施

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
観光サインやマップの統一、見やすい観光案内標識づくり	○	○	○	→		
各信号や駐車場に名称をつける		○			→	
132ヶ所の神社仏閣の説明板の充実		○			→	
格安観光、タクシー代行車の活用	○		○	→		
行田ブランドが全て揃っている物産館の整備			○		→	
飲食店等の前の休憩所やベンチ等の充実			○	→		
観光(おもてなし)に対する行田市民の意識改革	○			→	→	
新たな行田ブランド(食べ物)のアイデア募集			○	→		
地産地消による飲食店の展開			○		→	
貸し農園、家庭農園の充実	○		○		→	
サイクリングロードの整備・観光ルートのカラーペイント		○			→	
ガイドボランティア(説明ボランティア)の結成	○			→		
観光資源を活用した定期的なイベント(桜めぐり、古墳や足袋蔵等の日本史めぐり)	○		○		→	
行田市の「忍城市」への改名		○			→	
駅名の「JR忍城駅」「秩父鉄道 忍城市駅」への改名		○			→	
観光協会をトップとした体制の見直し・一元化	○	○	○		→	
民間主体のシンクタンクの結成	○	○	○	→	→	
ホームページやパンフレットの見直しと充実		○	○		→	
様々な媒体を活用した情報発信の強化(行田の祭りを全国にPR。例えば「手帳」に行田のお祭りを掲載してもらう)	○	○		→		
テレビ番組(まちの紹介)の放映権の買取り		○		→		
小中学生を対象とした「行田の魅力」を伝える講習の実施		○			→	

#### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・短期的には、市民によるガイドボランティアを結成し、行政と商店などの民間業者が手を組んで、案内板の統一や休憩所・ベンチの充実、新たな行田ブランドの創出など、低コストで手がけやすいソフト面でのおもてなし環境づくりに着手することが考えられます。
- ・中期的には、民間では観光物産館の整備、行政はサイクリングロード整備などハード面の整備を目標とします。
- ・映画「のぼうの城」公開など世間の関心の高まる時機にあわせて行田市を「忍城市」へ改名し、全国的な知名度を上げていきます。
- ・中長期的には、商店街を商業特区に指定し、規制緩和等により商店や民間事業者を誘致し、民間活力による賑わいづくりを進めていきます。

## ④ 教育について

### 【現状と課題】

- ・人口流出の要因として、地域に馴染めなかったり、まちに魅力がないために若い世代や子供が出て行ってしまふ。
- ・人を呼び込むために、出て行った人を戻す、迎え入れる施策を充実する必要がある。

### 【まちづくりの方向性】

- 人を呼び込むために、教育に関して県下のまちを目指す。

### 【取り組みアイデア】

- ・幼稚園・保育園、小中高の教育環境の充実

### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
幼稚園・保育園、小中高の教育環境の充実	○	○	○		→	

#### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・教育に関して県下ということになれば、子育て世代の人口は間違いなく増えると考えられます。子育て・教育環境の整備は行田市としての重要な課題のひとつです。

## 特に進めるべき「重点的な取り組み」

### ● 観光を取巻く体制の見直し・一元化

#### 【取り組みの必要性】

- ・観光資源は豊富にあるが、観光マップや案内板等がばらばらで観光客に分かりづらく、観光・文化に対する市民の意識も低い。
- ・観光に活用できるもの（個人所有の雛人形など）が、活用されていない。



#### 【具体的な取り組みについて】

- ・民間を主体とするシンクタンクを結成し、観光客の目線で取り組みを一元化する。
- ・民間ならではの企画・アイデアで、埋もれた観光資源を活用する。
- ・組織として連携し、一過性のイベントで終わらない継続的な取組みを打ち出す。
- ・観光分野に限らず、一元化された連携体制をあらゆる分野において発展させる。

### ● 商業や産業・あらゆる分野での「特区」の創設

#### 【取り組みの必要性】

- ・個人商店などの個々の取組みにはもはや限界がある。
- ・そこを訪れるメリット・そこで暮らすメリットがない限り人は集まらない。



#### 【具体的な取り組みについて】

- ・行政主導のもと、民間企業や専門家、市民を巻き込んで特区制度を導入する。
- ・例えば商店街特区では、助成制度や法人税・固定資産税等の減免措置をとる。
- ・商店街に限らず、産業特区による企業誘致、教育分野や子育て分野などの特区を定め、税収効果等の長期的な視野で人を呼び込む。

### ● 「行田市」の「忍城市」への改名

#### 【取り組みの必要性】

- ・多くの人を呼び込むには、インパクトのある取組みで全国的な知名度を上げる必要がある。
- ・映画が公開されても、「忍城」が「行田市」にあることは分からない。



#### 【具体的な取り組みについて】

- ・「忍城市」への改名を望む市民の声・後押しを受けて、行政主導で改名に取り組む。
- ・鉄道事業者と協議し、駅名は、秩父鉄道「忍城市駅」、JR「忍城駅」へ変える。
- ・「忍城市」への改名によって全国的な知名度が上がり、観光や産業の各分野で大きな経済効果が期待できる。

## 5) まちづくりの推進

まちづくりは、市民が主役です。市民の声や思いを聞き、受け止めながら、市民と連携した取り組みによりまちづくりを進めていくために、以下の内容を提案します。

分野	まちづくりの方向性
市民参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民参加を広げるためのPRを行う。</li> <li>●市民活動グループと連携したまちづくりを進める。</li> <li>●市民の声を聞く体制づくりを進める。</li> </ul>
計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画の進行管理を行う。</li> <li>●市民まちづくり会議を継続する。</li> </ul>

### ① 市民参加について

#### 【現状と課題】

- ・市民意識調査などが行われているが、それらが施策に十分に反映されていない。
- ・市民の意見を踏まえたまちづくりを進めるための体制や仕組みづくりが必要。
- ・この市民まちづくり会議への応募者が少なかった。
- ・市民参加についての情報が少ない。

#### 【まちづくりの方向性】

●市民参加を広げるためのPRを行う。

●市民活動グループと連携したまちづくりを進める。

●市民の声を聞く体制づくりを進める。

#### 【取り組みアイデア】

・広報誌等を活用した、幅広い世代への市民参加の意識向上  
 ・自治会・企業等へのPRと協力依頼

・市民活動グループとの連携

・市民意識調査の活用  
 ・定期的に市民の声を聞く機会の設置

### 【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
広報誌等を活用した、幅広い世代への市民参加の意識向上	○	○	○	→	→	→
自治会・企業等へのPRと協力依頼	○	○	○		→	→
市民活動グループとの連携	○	○			→	→
市民意識調査を活かした行政	○	○	○	→		
定期的に市民の声を聞く機会の設置	○	○		→	→	→

#### 市民まちづくり会議で出された意見

- ・市民参加を促すために、さまざまなメディアを活用しながら、幅広い世代に向けて情報発信や意見聴取を行う必要があります。また、無作為抽出による対象者選定も有効だと考えます。
- ・市内のさまざまな活動主体と連携し、まちづくりを進めていく必要があります。

## ② 計画の推進について

### 【現状と課題】

- ・現行の都市計画マスタープランの進捗状況について、事業の進捗状況は把握できるが、取り組みに対する評価が出来ていない。
- ・計画をつくるだけでなく、実効性を伴った計画でなければならない。計画期間に何を現実させるのかを明確にすることが必要。

### 【まちづくりの方向性】

●計画の進行管理を行う。

●市民まちづくり会議を継続する。

### 【取り組みアイデア】

- ・計画の進行管理体制の整備
- ・進行管理に関する情報の公開

・市民まちづくり会議の継続

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
計画の進行管理体制の整備		○		→		
進行管理に関する情報の公開		○		→	→	→
市民まちづくり会議の継続	○	○		→	→	→

市民まちづくり会議で出された意見

- ・都市計画マスタープランが「絵に描いた餅」にならないよう、進行管理が必要不可欠です。
- ・市民提案書には「ぜひ実現してほしい」という強い思いが込められています。提案した内容が計画に反映され、計画を進める段階においても、市民まちづくり会議として関わっていくことができる仕組みを望みます。

## 市民まちづくり会議参加者からの意見

---

市民まちづくり会議では、まちづくりに関する提案・意見等のほかに、都市計画マスタープランのあり方や市民参加について、次のような意見が出されました。

都市計画マスタープランの策定にあたっては、これらの意見を重く受け止め、これからのまちづくりに向けた取り組みを確実に進めていただけることを強く望みます。

### 【都市計画マスタープランについて】

- ・市のまちづくりの基本理念や将来像が見えない。また、市民に伝わっていない。
- ・計画期間が 20 年となっているが、行田市としては、国や県の枠組みにとらわれず、近未来的にあるべき姿を逆発信していくような姿勢で取り組んで欲しい。
- ・市民意識調査を定期的実施しているが、その結果がまちづくりに活かされていない。
- ・「絵に描いた餅では終わらせない」という表明があったが、どのように担保していくのか、実現に向けしっかりと検討すべきである。
- ・今後の目標を具体的に示すとともに、いつまでに何をするのかを示す必要がある。
- ・まちづくりには道路や公園の整備も必要だが、市民が安心して暮らすためには、福祉分野の取り組みも重要であり、両者を視野に入れて取り組んでほしい。
- ・市民まちづくり会議で提案したこと、特に「重点的な取り組み」は、夢だけでなく本当に実現して欲しいと強く願っている。市民としては、市民運動などを展開してでも、実現させたい取り組みであることを、市も認識すべきである。

### 【市民参加について】

- ・市民参加の取り組みを進めているが、まちづくりや都市計画に市民がどのように参画できるのか、市民に伝わっていない。もっと情報が公開されれば市民の意識も高まるのではないか。
- ・まちづくりに関する情報は、まちづくり推進課で集約しデータバンク化するなど、市民が情報を入手しやすいようにして欲しい。
- ・まちづくりは楽しいと実感している。もっと多くの市民が関われる機会があるとよい。

## 市民まちづくり会議参加者名簿

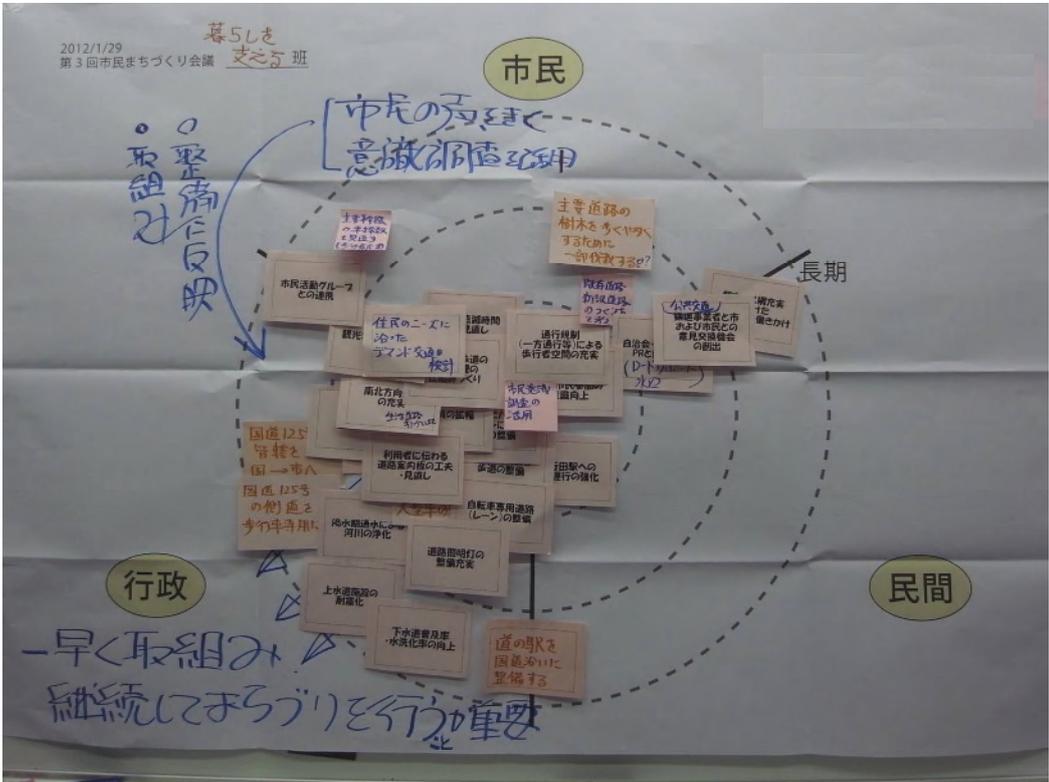
グループ	氏名	集合写真（第4回出席者）
<p style="text-align: center;"><b>住まいと暮らし</b></p> <p>（住環境、防災・防犯、コミュニティ）</p>	<p>黒澤 建            関川 忠彦            園田佳代子            橋本 信雄            山崎 眞男            吉田 猛            渡邊 正子            渡部 政幸</p>	
<p style="text-align: center;"><b>暮らしを支える</b></p> <p>（道路、公共交通、下水道、情報インフラ）</p>	<p>荒井 一郎            伊東 憲昭            黒川 俊昭            小堺久美子            清水 厚一            八須 健次            渡辺 国雄</p>	
<p style="text-align: center;"><b>魅力を高める</b></p> <p>（自然環境（水と緑）、景観、歴史、レクリエーション）</p>	<p>新井 俊夫            今井 郁雄            島澤 敬次            田口 友子            西岡 茂子            萩原 勝利            橋本 昭義            平山 敏江            茂木 幸蔵</p>	
<p style="text-align: center;"><b>賑わいをつくる</b></p> <p>（中心市街地と駅周辺のまちづくり、産業振興（農・工・商）、観光）</p>	<p>金原 二郎            串田 隆義            鈴木スイ子            高桑 順男            永島 宏章            濱中 紀子            藤田 烈            水野 武久</p>	

# 市民まちづくり会議の会議風景

住まいと暮らし  
グループ



暮らしを支える  
グループ





賑わいをつくる  
グループ

